

眼で見る世界の森林 (5)



太古の森 (Alerce forest)

英語名を“Patagonian cypress”, スペイン語名を“alerce”と呼ばれる *Fitzroya cupressoides* はチリおよびアルゼンチン南部に分布するヒノキ科の高木で、樹高60m、直径4mに達する。*Fitzroya* 属の現生種は本種のみだが、タスマニアで漸新世の地層から化石種が見つまっている。また、1993年に *Science* 誌に発表された論文で、チリのアレルセ林で採取された年輪コア96サンプルのうち最も古い個体は3,613歳と推定されたことにより、bristlecone pine (*Pinus longaeva*) に次ぐ長寿命の木として話題となった。

良好な状態の alerce 林は南緯41°~42°の範囲に残されているが、小規模な群落はパタゴニアまで分布している。低地の群落は湿地の周辺で土壌水分の多いところ、山地の群落は急斜面にほぼ純林を形成する。前者では *Nothofagus nitida* および *Podocarpus nubigena* を、後者は *N. betuloides* を伴う。低地に分布する alerce 林の多くは17世紀中頃から建築材として大量に利用されはじめ、18世紀から19世紀には伐株だけを残してほとんど消滅してしまった。現在は約20,000haの alerce 林が残され



ているが、それは本来の面積の15%に過ぎないといわれている。一部では私的に保護地を設けて保全活動を行っているが、生長が遅いため回復は難しい。一方で現在でも盗伐が絶えないし、残されている大きな伐根を細かく切り出すなどの利用が絶えないといわれている。軽いのに耐久性(特に耐候性)があり、割裂性がよく加工しやすいことなど材の優良な特性が魅力となっているのだろう。IUCNのred listでは“Extinct”に指定され、ワシントン条約(CITES)においても附属書1に記載されている。

チリ南部のPuerto Monttに近いAlerce Andino National Parkでは、山地型の大小さまざまな alerce 群落を見ることができる。筆者が訪問したときは、残念ながら雨であった。掲載した写真はPuerto Monttの北西部にある湿地周辺に位置する群落で、樹高は30m、直径は0.3~0.5mの alerce で構成されるほぼ純林であった。今回の説明にはICUNのホームページ(<http://www.iucnredlist.org/apps/redlist/details/30926/0>)を参考にした。

(森林総合研究所 斉藤昌宏)

本欄に読者の皆様の投稿を歓迎します。詳細は本誌83号25頁を参照ください。